

## 年 頭 所 感

一般社団法人 全国信用組合中央協会  
会 長 柳 沢 祥 二

はじめに、この度の令和6年能登半島地震により被災された地域の皆様へ心からお見舞いを申しあげるとともに、被災地域が、一日も早く復旧・復興を果たし、被災された方々が通常の生活を一刻も早く取り戻せるよう、お祈りいたします。

それでは、令和6年の初春を迎えるに当たり、ご挨拶を申しあげます。関係各位には、旧年中に賜りましたご支援、ご協力に対し、厚く御礼を申しあげます。

### 《経済情勢等について》

さて、国内の景気は、社会経済活動の正常化やインバウンド需要の回復を反映して緩やかな回復基調にあるものの、エネルギー・資源価格の高騰、さらには人手不足・人材確保の問題やそれに伴う人件費の上昇が続き多くの業種で収益力の足かせとなっており、企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい環境下にあります。

また、国際情勢においても、長引くロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、中東情勢の緊迫化や中国の景気減速懸念等、今後の景気を懸念する材料が山積しております。

このような中、信用組合は、協同組織金融機関として、地域・業域・職域社会のため、その使命と役割の発揮が期待されているところであり、事業者・生活者の最も近くで伴走支援する信用組合の重要性は今後も増していくものと認識しております。

その役割発揮のため、引き続き信用組合は、取引先の多様な課題に応じたきめ細かなサポートを実践してまいり所存でございます。

### 《信用組合業界の課題等について》

ここで、信用組合が取り組むべき課題等について申し述べたいと存じます。

(事業者支援の推進について)

第一に事業者支援の推進について申し上げます。

信用組合の主なお取引先である中小・小規模事業者につきましては、その多くがコロナ禍を乗り越える中で積み重なった債務に加え、エネルギー・資源価格の高騰、さらには人手不足に伴うコストの増加が大きな足かせとなる中、顧客から価格転嫁への理解を得ることが困難な事業者も少なからず見受けられるなど、依然として厳しい経営環境が継続しております。

こうした状況の中で、多様な経営課題に直面するお取引先に対しては、円滑な資金繰り支援は当然のこと、経営改善支援、事業再生支援および事業承継支援をはじめ、新たな事業にチャレンジするあらゆる世代の方々に対する創業・スタートアップ支援、さらには、ビジネスマッチングやデジタルトランスフォーメーション(DX)支援など、各信用組合がこれまで築き上げてきた地域等における関係者とのネットワークなどを最大限に活用し、伴走支援を通じた事業者の経営の持続可能性の確保に全力を尽くしてまいります。

(経営管理態勢の強化について)

第二に経営管理態勢の強化について申し上げます。

金融機関を取り巻く環境は、国内外の経済・物価情勢を巡る先行きの不確実性や、それに伴う金融・為替市場の変動、特に金利の上昇局面における影響など、注視すべき状況が続いており、信用組合においても、適切なガバナンスとリスク管理のもとで、収益力強化と経営効率の両面から態勢整備の強化を図ることが求められております。

特に、喫緊の課題であるマネロン・テロ資金供与対策、サイバーセキュリティ対策等についての確かつ迅速に対応することが必要であります。

マネロン・テロ資金供与対策については、本年3月末までにマネロン等対策に係るガイドラインに基づく態勢整備を完了することが求められており、最終段階に入ることから、これまで以上に経営陣主導のもと態勢整備を進めていくことが肝要と考えております。

また、サイバーセキュリティ対策については、申しあげるまでもなく顧客への信頼性の観点から避けては通れない重要な事案であり、引き続き、実効性のある態勢整備

に向け、取り組んでまいります。

さらに、IT・デジタル技術の多様化・高度化により、情報セキュリティを含むシステムリスクについては、システムダウンや誤作動、不正使用等に伴う対応について、業界全体で対処すべき課題として取り組む必要があります。一方、利用者のニーズに合った金融サービスを提供していくためには、新たなシステム開発やITベンダーとの連携は不可欠であることから、様々なリスクを見極めながらも利便性の向上にも考慮した対応を図ってまいりたいと考えております。

#### (組織力・人材力の向上について)

第三に組織力・人材力の向上について申し上げます。

信用組合の役職員が、事業者・生活者が抱える諸課題を的確に把握し、コンサルティング機能の発揮等により質の高い金融サービスを提供していくためには、役職員一人ひとりの能力向上は勿論のこと、組織が一体となり総合力をもって取り組むことが不可欠であります。そのためには、役職員が地域社会や取引先とのつながりを意識し、やりがいや働きがいを感じながら主体的に仕事に取り組むことができる環境を整備することが重要です。

信用組合の総合力向上のためにも人的資本経営を経営の優先課題として位置付け、その実践の効果が取引先の満足につながる好循環となるよう、人材の育成、確保に努めてまいりたいと考えております。

#### (デジタル化への対応について)

第四にデジタル化への対応について申し上げます。

コロナ禍を契機として、国民生活、企業活動、公的分野等、様々な局面でデジタル化が急速に進展するとともに、足元では社会や働き方の多様化に対応するための重要性が一層高まっております。また、人口減少・少子高齢化に伴い人手不足が恒常化する中で社会経済活動を維持・発展させていくためには、デジタルの力を活用していくことが必要不可欠であります。

デジタル化の推進につきましては、信用組合業界における重要事項の一つと位置付けており、特にキャッシュレス化や非対面取引の拡大等、取引先に対するデジタル技術を活用した利便性の高い金融サービスの提供は優先的に取り組むべき事項と考

えております。さらには、信用組合自身においても、業務のデジタル化により、事務作業のシステム化等による業務の合理化・効率化を図ることで、取引先への支援強化に取り組める態勢を一層整えてまいりたいと存じます。

以上、信用組合業界を巡る諸課題について4点申しあげましたが、それ以外にも対応していかなければならない課題は山積しております。これらの対応については、全国の信用組合の中央機関として全信組連等と緊密に連携しながら、引き続き各信用組合の支援を積極的に進めてまいる所存でございます。

#### 《令和6年度事業方針について》

最後に、以上の内容も含めた本会の令和6年度事業方針について触れさせていただきます。

繰り返しになりますが、中小・小規模事業者や生活者を取り巻く環境は依然として厳しく、信用組合には資金繰りのみならず経営改善や事業再構築等の事業者支援が求められております。本会としては、その役割を全うすべく、外部支援機関等とも連携し、お取引先が求める課題解決を図る態勢づくり、取組みを強力に後押ししてまいりたいと存じます。

また、信用組合業界の健全性を高める観点からマネロン・テロ資金供与対策や令和7年に予定されているバーゼルⅢ最終化対応等については、システム的な分野も含め信用組合が適切に対応できるよう、外部専門機関等を一層活用しながら進めてまいります。

さらに、信用組合を広く皆さまに知っていただきたいという思いから、これまで以上に「しんくみブランド」の認知・浸透を図るため、ブランドコミュニケーション事業にも力を入れたいと考えております。令和6年度は、各信用組合と中央組織の広報活動の役割を明確にし、個別の信用組合においては、各コミュニティにおける認知度向上に向けて取り組む一方、中央組織は信用組合ならではの特色を生かし、かつ基本理念である相互扶助の取組みを広く周知する活動を行うなど、「しんくみバンク公式YouTubeチャンネル」等を工夫しながら活用してまいりたいと存じます。

以上、縷々申しあげましたが、これら諸課題の解決のためには、全国の信用組合と

中央機関が心を一つに、力を合わせて取り組んでいくことが必要不可欠であり、本会としては、「信用組合のための中央組織」であるという役割を再認識するとともに、会員信用組合の求めるニーズを捉えながら施策を実行してまいります。

本年の干支は、「甲辰（きのえ・たつ）」でございますが、辰は、十二支の中で唯一架空の動物であるため、現実を超えたパワーがダイナミックに働いて変化をもたらしていくと考えられています。また、甲は十干の始まりにあたり、生命や物事の始まりを意味し、この2つが合わさる年は、これまでのコツコツと蓄えられた努力が花を咲かせ、これからの成長をさらに形作っていく年になるといわれております。

信用組合業界においても、“ちかくにいるから、チカラになれる。”を合言葉に全国の信用組合が連携を強化しながら、それぞれの地域・業域・職域で協同組織金融機関の役割を発揮し、さらなる成長の年になるよう努力してまいる所存でございます。

最後になりますが、本年が皆さまにとりまして、より良い年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

以上